

「私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します」

マタイ6：12

堀田修一 22・8・7

I 「主の祈り」は主が教えられた世界で最も大切な祈り。すべての原則、要素が含まれている。

「天にいますわたしたちの父よ（偉大な方への親しい呼びかけ）。

前半：神を第1とする祈り＝①御名が聖なるものとされますように（御名が唯一本物の神として聖別され崇められますように）。②御国（神の支配、神の救い。現在、福音宣教により私たちの心に御国、神の支配、救いが来ますように。将来、主の再臨により全世界に、神の国、支配、救いが完成しますように）。③みこころが天で行われるように、地でも行われますように。神のみこころが天で完全に行われている。しかし、この地では、悪魔と人間の罪により、正しいみこころではなく、悪が行われている。世界宣教の前進により、人々の心に（神の国、支配、救い）が与えられ、この地、世界中で神の喜ばれるみこころが行われますように。

後半：私たちの必要のための祈り。①私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください（私だけではなく、世界中の困っている人に、日ごとの糧を与えてください。すべて与えられているものは、当たり前ではなく神の恵み）。②「私たちの負い目をお赦してください」：12。主は、私たちがキリスト者として生きる一生の間、罪の赦しを求めて祈るように教えられた。これは、私たちの歩みにとり、決して欠くことのできない重要な祈り。罪の赦しは、私たちに永遠のいのち（神との永遠の愛の交わり）、永遠の生活を保証する恵み。

II 「私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します」：12。

1. 自分の罪を神に正直に告白し、主の十字架の贖いの恵みで赦されたことを心から感謝したい。私たちに神に赦された喜びが満ちあふれるとき、私たちは、新しい力、愛をいただいて、人を赦す人に変えられ続ける。私たちは、自分の気分にと土台を置くのではなく、赦しのみことばの約束にと土台を置いて、自分の罪を告白したい。そのとき、自分の心に喜びがなくても、主のみことばを土台に罪を告白するとき、赦された感情、気分は、その後についてくる。救われた気分、赦された気分になれなくても、みことばの条件を守る（自分の罪を告白し、主を信じる）ことが大切。罪の赦しの喜びの感情は、いつも、みことばの約束を「認識する」とき与えられる。真実な神は自分の罪を真実に告白する私たちを決してさげすまれない。罪の真実な告白こそ、神が喜ばれるいけにえ。「神へのいけにえは 砕かれた霊。打たれ 砕かれた心」詩篇51：17。罪の告白により十字架の血の代価により私たちの罪の負債が完全に支払われているので、神は完全に赦されるが、悪魔と私たちの心の不完全な良心は私たちを「おまえは赦されていない」と責め続けます。その時、みことばの武具でしっかりと戦いたい→「神は…わたしたちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書（約16万年分の罪の負債証書）を無効にし、それを十字架に釘付けにして（十字架で完全に支払われた）取り除いてくださいました」コロサイ2：13, 14。「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い出さない」ヘブル10：17。興味深いことに、パウロは罪の赦しという言葉余り使っていない。新約聖書に罪の赦しは、147回出てくるが、そのほとんどは福音書に

ある。パウロは「罪の赦し」を「義認」として繰り返し語っている。罪の赦しは信仰による義認と繋がっている。「義認」とは、すべての罪の赦しにより神との交わり（神と共に生きる永遠の命）が回復するという積極的な恵みを持っている。

2. 神に赦された恵みは、人を赦す神のみこころにつながる。本日の主の祈り「わたしたちも、私たちに負い目のある人たちを赦します（原語：赦しました）：12。以前の文語訳では、「我らに罪をおかす者を、我らが赦すごとく」となっていた。これは、次の誤解を与えてきた。「私たちが他人の罪を赦しますの

で、私の罪も赦してください」という祈りだと。そう理解すると心から祈れないときがたびたび出てくる。なぜなら、誠実なキリスト者ほど、他の人を完全には赦していないと気づかせられることがあるからである。※証し。しかし、主が教えられたこの祈りは、神に条件を提示しているわけではない。自分が他の人を赦しますので、その代償として私も赦してくださいという意味ではない。その逆である。神が、これまで私たちの数え切れない罪を赦してくださったので、私たちも他の人を赦すべきですという祈りである。先週、説教でお語りした、マタイ18：21-33において、主君から1万タラントの借金を免除してもらった人が、一人の仲間に出会い、彼は、その仲間に、自分が免除してもらった額の60万分の1の少額を貸していた。彼は、その仲間の借金を免除しないどころか、返済しない仲間を牢に投げ込んだ。その後、この人は、主君から言われる。「私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか」：33と。これこそ、主イエスが主の祈りで教えられた原則。神によって赦された者は、人の罪を赦すのがみこころ。これは、全く当然のことである。私たちは、マタイ18章に登場する仲間を赦さず、牢に放り込んだ人を「なんてひどいやつだ」と思う。しかし、自分のことはそう思わない。神に数え切れない自分の罪を赦された私たちが人を赦せないなら、「なんてあなたは、ひどい人だ」と言われても仕方がないのである。それほど私たちは、自分への量りと人への量りが違う。「あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤りで量り与えられるのです。あなたがたは、兄弟の目にあるちり（小さな罪、欠点）は見えるのに、自分の目にある梁（大きな罪、欠点）には、なぜ気がつかないのですか」マタイ7：2, 3。私たちが与える人への赦しは、神が私たちに与えてくださった赦しに比べれば、取るに足りないものである。

Ⅲ「互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」コロサイ3：13。私たちも、この祈りを学び終える前に、神の光を心に当てていただき、自分の心を深く点検しましょう。私には、まだ赦していない人はいないだろうか。すべての人を赦しているか。だれかに、とげが刺さった苦々しい思いを抱いていないか。※今、私はどうか？いつもねたみ気になる人、顔を合わせたくない人。身近な人ほど赦し難い。もし、自分は主から赦され続けているのに、ある人を赦していない罪を御聖霊に示していただいたら、まず心の中で「赦します。祝福します」と祈ることから始めたい→ルカ6：28。証し。そして、自分の力では無理と認めて、父なる神の大きな愛、主の十字架の恵み、聖霊の交わりの実である愛の力を祈り求め「心から赦せますように」と祈りましょう。私たちには無理でも、神は私たちに赦す心を与えることがおできになる。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます」マタイ19：26。私たちは神の圧倒的な赦しをすでに経験している。本当に人を赦す事ができるのは、この神の赦しを経験、自覚したとき。赦す事が難しいとき、神の前に「私たちの負い目（人を

赦していない罪)をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します」と祈りたい。※人を赦す事と自分を正しく守る事は矛盾しない。神は、私たちの悔いた、砕かれた謙遜な心を喜ばれる。神が、今日まで私たちの数え切れない罪をこれほどまでに赦し続けてくださっている故に、私たちも人を赦す者に変えられ続けるのです。私たちが人を赦す秘訣は、自分が今日まで、いかに神に赦され続けてきたかという恵みを深く思い、感謝する事です！「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださいましたのです」エペソ4：32。罪の赦しは、新しい契約によって与えられた中心的な恵み「わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い出さないからだ」エレミヤ31：34。「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主はあなたのすべての咎を赦し」詩篇103：2、3。日々、自分の罪を告白し、数え切れない罪を神が赦し続けておられる驚くべき恵みを感謝し、御名を崇め、人を赦し、主の愛で愛し合う関係を築けるように主の祈りを祈り続けたい！